

甲府に行く道にて

東 牧 羊

百千歳かはらぬ不二の大み山

汝よ鏡よやまとごゝろの

鶯

湯川たき子

わさばらけ野邊の鶯梅が枝に

よをこめてなく聲ぞにはへる

堇

われはてしかきねのすみれ匂ふなり

摘みて歸らむ春のかたみに

フレーベル會俳句端書集

一、課題 春季雜吟 一人十句以下

一、締切 二月二十五日限り

一、披露 明治卅八年四月發行本誌文苑欄

一、賞品 天地人三座には美景を呈す

一、撰者 當分本會の撰とす

一、投稿 本誌購讀者は何人にても投吟する事を
得用紙は繪葉書に限り(眞筆刷物隨意)

住所氏名雅號を明記し必らず左の名宛
にて送らるべし。

埼玉縣入間郡芳野村

フレーベル會俳句掛

鹽野奇零宛

第七回俳句端書集

明ける夜に氷を叩く隣かな 長野 飯塚 曉震

夜や寒み燈火くらき木賃宿 全

霜置く煙る焚火の普請小屋 全

沈没の橋懐し冬の月 仙台 立花 一瓢